

人工呼吸器回路の接続トラブルに起因した心肺停止の医療事故について

この度、当院において、人工呼吸器回路の接続トラブルに起因した心肺停止の医療事故が発生しましたのでご報告いたします。

医療事故が発生したことにつきまして、患者様とご家族様には多大なるご負担とご迷惑をおかけしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

今回のような決して起きてはならない医療事故を起こしてしまったことを、きわめて重く受け止めており、病院としての責任を痛感しております。

このことを深く反省し、今後は、二度とこのような医療事故を起こさないよう再発防止に努め、患者様とご家族様の信頼回復のため、職員一同、全力で取り組んで参ります。

職員一丸となって医療事故の再発防止により一層の対策を講じてまいる所存ですので、どうかこれからもよろしくごお願い申し上げます。

当院からのお詫びと再発防止のお約束を申し上げます。

誠に申し訳ございませんでした。

院長 高田 博仁

【医療事故の概要】

難治性疾患のため人工呼吸器が必要で、約 3 年間、当院で入院療養を行ってきた患者様について、令和元年 11 月に人工呼吸器回路の接続トラブルが生じ、心肺停止に陥りました。看護師が発見後、医師が心肺蘇生を行い、救命し得たものの、高次脳機能障害の後遺症が残りました。

当院では、外部有識者委員を含む医療安全検討委員会を設置し、原因究明、再発防止策について検討を行いました。検討の結果、人工呼吸器の回路の接続が外れていることを知らせるアラーム及び生体モニターアラームへの対応が遅れたことに起因する医療事故であると考えております。

【再発防止策】

○ 人工呼吸器管理に関する看護体制等の見直し

患者様の状態異常をより早く発見するために、ナースステーションの生体モニターアラームに対応する専用スタッフを配置することとしました。

また、人工呼吸器を装着されている患者様をナースステーション近くの病室に移動するようにしました。更に、アラームへの対応状況を確認するための病棟回診を実施することとしました。

○ 医療安全マニュアルの改訂

人工呼吸器のアラーム対応が確実にできるようにモニター音量を原則変更しないこと、緊急性の高いアラームと区別するために、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置交換時や体動によるアラームを減らす設定とすること等、生体モニターの設定項目に関して医療安全マニュアルを改訂しました。

○ 人工呼吸器研修等の実施

院内で「人工呼吸器研修会」、「モニターアラーム講習会」、「気管切開とカニユーレについての研修会」を複数回開催し、人工呼吸器の取扱い等に関する教育・研修を強化いたしました。

○ 職員への注意喚起等

今回の医療事故について、全ての職員に周知するとともに、必要時には緊急招集コールを発動すること、患者様の命にかかわるアラームへの優先的対応を徹底すること等、医療安全に関する取組を充実させ、職員への注意喚起、啓発を実施してまいります。